

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000721		
法人名	株式会社 Human-Line		
事業所名	グループホーム 自由の丘 ユニット1		
所在地	小樽市長橋2丁目22番4号		
自己評価作成日	平成28年 9月 30日	評価結果市町村受理日	平成28年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海を一望できる高台にあるホームで毎年夏になるとホーム前では焼肉パーティーが恒例になっています。そこには穏やかに自分らしく過されている笑顔の入居者様の顔があります。そんなホームが自由の丘です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172000721-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号
訪問調査日	平成28年11月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市郊外の閑静な住宅地にある2ユニットのグループホームである。眺望に恵まれ海の見える景色を楽しむことができる。法人は複数のグループホームを経営しており、研修、マニュアル、食材の購入などで互いに協力している。職員は内外の研修に参加しスキルアップを図り、質の高いケアを実施している。職員は自己チェック表により利用者への接遇態度や自身の健康管理について振り返り、管理者を中心に良好なチームワークのもと、利用者を尊重した介護を行っている。医療については、複数の提携医による往診と看護師の配置があり、利用者、家族にとって安心となっている。災害・安全対策については、日頃から消防署や警察と連携をとり、職員の防災意識を高め、セキュリティ会社と契約し、利用者の安全を守るよう配慮している。地域とは町内掲示板の利用や中学生の訪問、近隣グループホームとの災害時協力などがあり、地域に根ざした事業所として信頼され親しまれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のネームの裏に理念をいれて普段から読み理念に沿ったケアができていますか振り返っています。	事業所独自に作成した理念は、額に入れて廊下に掲示し、パンフレットに記載している。管理者及び職員はネーム裏に理念を入れて、日々理念に沿ったケアを実践するように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	子供神輿の休憩場所として地域の子供たちとふれあったり町内中学校が合唱を披露しにきています。	町内会に加入し、行事に参加している。町内の掲示板に事業所の行事を掲示している。地域の中学生が合唱を披露したり、子供神輿の休憩所となっている。ボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々には認知症の理解がなされていないがホームの行事に参加するように声をかけています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月に1回開催しており町内会長・家族様・地域包括センター職員などが参加され議事録は家族様に送付し職員が周知しサービスの向上に活かしています。	会議は定例に開催し、地域包括センター、町内会長、家族、職員が参加している。運営内容や行事、避難訓練などについて話し合い、討議内容はサービス向上に活かしている。家族には事前に案内し議事録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことがあれば電話したり出向いたりして相談している。市の集団指導にも必ず参加しています。	行政担当課職員とは報告事項や相談業務などで直接出向いたり、電話するなどして連携体制をとっている。小樽市が年2回開催する集団指導には必ず出席し、情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に参加し会議で職員全員に共有して認識しています。	身体拘束についてマニュアルを整備している。事業所用意の自己チェック表で接遇態度などを振り返るよう行っている。外部研修会に参加し、内部で伝達研修を行い、意識の共有を図り職員全員で身体拘束のないケアを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加しその職員から勉強会を実施している自分チェック表を作成して1日1日のケアを振り返っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前後見人を必要とする入居者様が入居されていまして後見人と連絡をとり支援していました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には御本人、家族様の不安なことをきいたり要望をお聞きし支援しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の会話からまた表情から思いを感じとりカンファレンスを行いまた面会時に家族様と話しをし申し送り、連絡ノートで共有しています。	会話や表情から利用者の意向を汲み取っている。家族とは面会時に意見を聴き、利用者、家族の意見は運営に反映させている。「便り」の発行・送付で家族に生活状況を伝え、外部への苦情受付機関を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日コミュニケーションをとっている。また表情をみて何かありそうな時は面談をしています。	法人代表は職員の個人面談を毎年行い、意見を直接聞く機会を設けている。管理者は職員と自己チェック表を参考にして毎月話し合い、会議や研修会などでも、そのつど話を聞き、職員の意見や提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修に参加しスキルアップができるようにしている。資格取得できる環境を作っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加した職員による報告書をまとめて回覧しまたその職員から発表してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に出席したりグループホーム相互研修会に出席し交流しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	御本人の不安、思いなどを聞き入れて安心して頂けるよう信頼関係に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族に不安・要望などを面会時などでコミュニケーションをとって意向を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、御家族の思いや願いが実現できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを常に思い尊厳をもって接し、不安、楽しみなどを共にして信頼関係を作っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報、面会時で日常の様子をお知らせし、また行事に参加を誘っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御希望があれば買い物、自宅に様子を見に行ったり外食に出掛けていたりしている。また友人知人が来訪することもあります。	家族や知人が来所した時はゆっくり寛げるように配慮している。帰省や買い物、昔住んでいた場所や商店を訪ねるなど、利用者の希望に沿って出かけ、馴染みの関係が続くように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コーヒータイムの時、食事の時、おやつの時など職員が会話に交じりながら入居者様同士仲良く交流できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が入院した際はお見舞いに行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中の言動・表情からご本人の思いをくみとり、また御家族から情報を得て支援につなげています。	本人の言葉や表情から意向を汲み取り、家族からも情報を得て職員間で共有し、本人の希望する生活ができるように検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族、生活歴などから情報を収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、できないことを日々の生活の中で見つけだしてその人らしい生活を提供しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、御家族の意向を確認し取り入れながらカンファレンス、申し送りノートで職員の情報、意見を出し合って介護計画を作成しています。	介護計画は本人、家族の意向を聴き、職員全員がカンファレンスで話し合い、介護支援専門員が作成している。3カ月毎にモニタリングしているが状況変化時には随時検討している。家族に説明し署名捺印で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個人ファイルに保存している。ご本人の話された事、表情をそのまま記録し申し送りノートで職員同士共有し介護記録の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院送迎、買い物、24時間の面会など柔軟に支援とサービス向上に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣グループホームのお祭りに参加したりしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	定期的にかかりつけ医が往診にきている。必要に応じて歯科往診も受けている。また御本人、御家族の要望に応じて病院受診も支援しています。	利用者希望のかかりつけ医には家族と共に通院支援や連絡などを行っている。協力医療機関とは内科、眼科、歯科など定期的に往診する体制にあり、看護師と共に健康管理を行い、緊急時連携体制も整備されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が入居者様の現状を把握し介護職員が気付いたことを伝え24時間体制ととり指示を受けるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際、医師と情報交換しました、お見舞いの際には御家族と話し合う場をもうけ退院された時は支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様に変化があったごとに医師、看護師、御家族と話し合う場をもうけ御本人の思いをくみ取り、職員でケアを統一して取り組んでいます。	「看取り指針」を説明し、本人、家族の意向を確認している。重度化した場合は家族や医療関係者と情報を共有し、家族とは文書による意向の確認を行い、医療連携を取りながら看取りを実施している。職員は研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災時対応マニュアルを作成し避難訓練のシミュレーションを1～2ヶ月に1回行い全職員に周知している。救急講習も全職員が研修している。またAED講習も定期的に研修しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を夜間想定して実施している。地震の対応も消防署の方に運営推進会議で話して頂いている。また近隣のグループホームと協力体制をとり避難場所を確保しています。	消防署指導のもと年2回避難訓練を実施している。マニュアルを整備し、定期的にシミュレーションを行い災害に備えている。避難場所は近隣グループホームを確保している。AEDの設置、セキュリティ会社との契約で安全をはかっている。	災害対策については事業所としては充分対策をとっている。今迄実施していることを継続して行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する言葉使い、対応などを職員同士注意するようにしています。また自分チェック表でその日の言葉使い、表情などを振り返るようにしています。	利用者の人格を尊重し、職員は自己チェック表で、接遇態度を振り返り、職員間でも互いに注意をするよう行っている。個人情報記載の書類は適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物への外出支援の際、好みの物を選んで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の思いを大切にし郵便局に行ったりして支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋さんが2ヶ月に1回こられ散髪、ひげそりを希望されたり、また化粧品の買い物に支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日には、好みの物を提供しています。また食事の下ごしらえ、食器洗いを職員と一緒にして頂いています。	利用者の希望に沿い副食などを選択することができ、誕生日には好みの物を提供している。利用者は力に応じて調理の下ごしらえや洗い物を手伝い、職員と共に和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量は記録し食べられる量だけ摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけで歯磨きをして頂き見守り介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行くことが難しい入居者様には排泄チェック表を作成しトイレ誘導などの支援をしています。	利用者の表情や動作、排泄チェック表の記録から排泄パターンを把握し、それとなくトイレに誘導し、トイレでの自立排泄を支援している。できるだけ布パンツ利用としているが、パットなども適切に利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、冷たい牛乳を飲んで頂いたりラジオ体操に参加して体を動かして頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後とご本人の希望に合わせて入浴しています。また同性介助の御希望がある入居者様には応じた支援をしています。	週2回以上入浴となっているが、本人の希望や体調により柔軟に対応している。シャワー浴や清拭も取り入れ、同性介助の希望を受け入れている。ゆっくり入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない入居者様には居間でお話したりしています。またお腹がすいて眠れない方にはおにぎりを提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用している薬の一覧表を作成しています。また服薬した時には本人の名前、月、日を声を出して他の職員とともに確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の出来ることをして頂き、生活に張り合いがもてるようおしぼりたたみ、お盆消毒、ゴミ集め、花の水やり、おしぼり洗いなど役割を持って頂くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム前の家庭菜園で収穫したりホーム前を散歩したりまたドライブを兼ねた食事などで外出したりしています。	ホーム前庭の日当たりの良い広い家庭菜園でトマトや大根を育て収穫するなど畑作業を楽しんでいる。外出行事として郊外へのドライブ旅行を企画し、花見や果樹園、ダム見物、外食などを実施し、利用者の生活の活性化に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	郵便局や病院受診の帰りに御本人所持しているお金で買い物ができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様に電話をしたり、息子さんに手紙を書いたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるができるよう季節の花を飾ったり、廊下にソファを置いて休憩の場所を作っています。	事業所の建物は高台にあり、居間の大きな窓からは海が眺められ、景色を楽しむことができる。室内には季節感のある利用者の作品が飾られ、廊下、トイレ、浴室など共有空間は広く清潔で安全に配慮されている。採光、室温、湿度は適切で騒音もなく、居心地よく生活できるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の居室へ行かれて入居者様同士お話をしている。また喫煙される入居者様には喫煙場所があります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を自宅から持ってきて頂いたり仏壇を持ってこられている入居者様もいます。	居室には、使い慣れた家具を持ち込み、大切な仏壇を飾っている。利用者の作品や家族写真を飾り自分らしく過ごせるように工夫している。家具の配置などは動線や安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な入居者様には手摺りを使用しています。		